

## 3 節 資料・情報収集

### I 図書館などの利用

大学での学習には、教科書以外にも多くの資料が必要となります。図書館を効果的に利用することで学問の幅を広げることができます。本学図書館をはじめ、公共図書館および国立国会図書館、他の大学図書館等を最大限に活用してください。

#### 1 国見キャンパス 図書館（以下「本学図書館」と省略）

学生証を携帯し、開館時間を確認のうえ、来館してください。

遠隔地の方へは宅配便での貸し出しも行っています。詳細は、入学時に配布の『通信教育生、看護学校生のための図書館ハンドブック』をご覧ください。

問合せ先 住 所：〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1

電話・F a x：022-717-3309

E - m a i l：etsuran@tfu-mail.tfu.ac.jp

ホームページ：<http://www.tfu.ac.jp/libr/>

#### ■開館日および開館時間

平 日 9：00～20：00  
土・日・祝日 10：30～18：30

ただし、授業期間外において学務行事のない日は、  
平 日 9：00～17：00

#### ■休館日

授業期間外において学務行事のない土・日・祝日  
入学式、卒業式、入学試験日  
夏季・冬季・春季各休業中の一定日  
※臨時休館等はホームページ、図書館  
掲示板に掲載します。

#### 2 仙台駅東口キャンパス 自習室

場 所 仙台駅東口キャンパス3階（通信教育部事務室となり）

開室時間 9：00～17：00

閉 室 日 事務室休業日（『試験・スクーリング情報ブック』『With』でご案内）、スクーリング（基礎演習）での使用日

使用方法 通信教育部事務室に学生証の提出（スクーリング・科目修了試験開催日は不要）

注意事項 ※食事はできません。

※室内の図書は閲覧可能ですが、貸し出しはできません。

### 3 他の大学図書館

他の大学図書館を利用するときは、原則として「閲覧許可願」(紹介状)が必要になりますので、事前に本学図書館の3Fカウンターまで郵便・Fax・E-mailでご連絡ください。利用を希望する他の大学図書館に資料の所蔵および利用の可否を問い合わせ、許可され次第、「閲覧許可願」を発行し送付します。

- ・身分証明書を持参することで、入館・閲覧・貸出可能な図書館もあります。くわしくは各大学図書館のホームページをご参照ください。
- ・試験期間などの混雑期は、一般の利用を制限している大学図書館もあります。
- ・利用の際は、各大学図書館の利用規則を遵守してください。

### 4 公共図書館

お近くの公共図書館が一番利用しやすい図書館ですので、ご利用をお勧めします。ただし、学術的な資料は大学図書館と比較して少ないかと思われます。

お探しの資料が居住区の公共図書館にない場合、公共図書館間の相互利用システムにより、資料の取り寄せができます。詳細については、各公共図書館のレファレンス・コーナー(調査・相談コーナー)にお問合せください。

### 5 図書館での複写

図書館で行う資料の複写(コピー)は、著作権法で許された範囲内になります。

- ・目的が個人的な調査研究であること。
- ・雑誌・新聞の最新号はコピーできません。
- ・コピーできる範囲は、雑誌は論文単位、図書は一部(半以下)です。
- ・一人につき1部のみコピーできます。

## II 参考図書

通信教育での自学自習という学習スタイルにあっては、難しいこと、わからないことが出てきたときに、自分で調べることができる手段(ツール)を多くもつことが学習の継続につながります。

具体的には、辞典・事典類などを手元に置いてまめに引くこと、文献の検索・入手方法に習熟すること、パソコンをお持ちの方はインターネットによる情報の入手方法に慣れることなどです。ただし、インターネット上には不正確な情報もありますので、文献による確認が必要な場合もできます。

## 1 事典・辞書類

### 1) 国語辞典

さまざまな種類の辞典が出ていますので、手元に一冊置いてください。『広辞苑』（岩波書店）、『大辞林』（三省堂）、『大辞泉』（小学館）など大型の辞典の一冊を利用されるとよいでしょう。

その他の方法としてインターネット上の無料辞書サイトを利用する方法もあります。

### 2) 専門事典・辞書

専門用語は、国語辞典では不十分な解説しか得られません。専門用語の定義や説明は、それぞれの分野の専門事典（辞典）で調べるようにしてください。まずは、図書館で利用し、専門科目を多く学ぶ2年次になるまでには、一冊は自分で購入することをお奨めします（\*は推薦図書）。

社会福祉学関連で手軽な辞（事）典には、次のようなものがあります。

- \* 『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房） 『現代社会福祉辞典』（有斐閣）
- \* 『社会福祉用語辞典』（中央法規）
- \* 『社会福祉基本用語集』（ミネルヴァ書房）  
『社会福祉士 介護福祉士のための用語集』（誠信書房）  
『現代福祉学レキシコン』（雄山閣） 『社会福祉用語辞典』（棋苑図書）  
『現代社会福祉用語の基礎知識』（学文社） 『新版 地域福祉辞典』（中央法規）  
『現代エイジング辞典』（早稲田大学出版部） 『社会福祉辞典』（大月書店）

福祉心理学関連で手軽な辞（事）典には、次のようなものがあります。

(心理学全般)

p. 70参照

(心理学各論)

『福祉心理学科 スタディガイド』参照

### 3) 六法

法律を集めた本は通称「六法全書」とよばれています。

社会福祉を学ぶうえでは、法律を知っておくことも大切です。社会福祉関係の法律を集めた六法全書には、次のようなものがあります。

- 『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房） 『社会福祉六法』（新日本法規）
  - 『福祉小六法』（中央法規） 『社会福祉基本六法』（誠信書房） 『福祉小六法』（みらい）
- 分野ごとに『高齢者保健福祉六法』『児童福祉六法』『知的障害者福祉六法』などより詳しく載せている六法全書や『身体障害者福祉関係法令通知集』などの法令通知集もあります。

また、法律もインターネットで検索可能です。総務省行政管理庁のホームページ（法令データ提供システム） <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi> をご利用ください。

## 2 参考図書をさがす

参考図書をさがす一番の方法は1で述べたように図書館を最大限使いこなすことです。それ以外にも、

次に述べるようなさまざまな情報源がありますので、利用してみてください。

### 1) 書店の利用

一般の書店には、福祉や心理の専門書はあまり置かれていません。各都市にある大型書店に足を運ばれるか、またはインターネットで書籍等が注文できるオンライン書店を利用してください。

仙台市内では仙台駅前の「ジュンク堂書店」（ヤマダ電機のビルB1階）、「丸善」（AER1階）、一番町の「金港堂」、泉区の「八文字屋書店」、長町南の「紀伊國屋書店」とともに専門書の品揃えが充実しています。

本学の国見キャンパス内にある「国見堂ブックセンター」も専門書を数多くとりそろえています。通信教育部学生には定価の5%引で販売します。ご利用ください。電話022-233-3111（内534）。

オンライン書店について以下にいくつか紹介します。

アマゾン・ドット・コム <http://www.amazon.co.jp/>

### 2) 書籍の検索

現在流通している本を書名や著者名から検索するには、日本書籍協会が発行している『日本書籍総目録』（図書館や書店にあります）、または日本書籍協会のホームページ内の

<http://www.books.or.jp/>

をご利用ください。

## 3 新聞・雑誌

### 1) 新聞・雑誌の利用

一般の新聞の家庭欄などには福祉関連の記事が多く出ます。もう少し専門的に最新の動向をつかむには、雑誌が最適です。社会福祉学・心理学分野の代表的な雑誌をあげておきます。

#### 社会福祉学分野

- \* 『NHK社会福祉セミナー』（日本放送出版協会）＝入門者向き
- \* 『月刊福祉』（全国社会福祉協議会）
- 『週刊 福祉新聞』（福祉新聞社）
- 『おはよう21』（中央法規）
- 『ふれあいケア』（全国社会福祉協議会）
- 『ケアマネジャー』（中央法規）
- 『月刊ケアマネジメント』（環境新聞社）
- 『地域福祉情報』（ジャパン通信情報センター）
- 『社会保険旬報』（社会保険研究所）
- 『週刊社会保障』（株式会社法研）
- 『隔月刊 社会保障』（あけび書房）
- 『季刊 児童養護』（全国社会福祉協議会）

#### 心理学分野

- 『こころの科学』（日本評論社）
- 『児童心理』（金子書房）
- 『発達』（ミネルヴァ書房）
- 『現代のエスプリ』（至文堂）
- 『臨床心理学』（金剛出版）
- 『心理学ワールド』（実務教育出版）

### 2) 学会誌

学会などの学術団体が発行する雑誌は、学会誌とよばれています。専門性が高いものですので、ある程度の基礎知識を身につけてから、読み進めていきましょう。

## 社会福祉学分野

『社会福祉学』（日本社会福祉学会）

『老年社会科学』（日本老年社会学会）

『社会福祉研究』（財団法人 鉄道弘済会）

『季刊社会保障研究』（社会保障研究所）

『日本の地域福祉』（日本地域福祉学会）

『特殊教育学研究』（日本特殊教育学会）

『介護福祉学』（日本介護福祉学会）

## 心理学分野

『福祉心理学科 スタディガイド』参照

また、各学会の大会発表論文集も参考になる場合があります。

### 3) 紀 要

大学・短期大学の学部や研究所が発行する雑誌は、紀要とよばれています。東北福祉大学では、『東北福祉大学研究紀要』、『東北福祉大学大学院研究論文集—総合福祉学研究』、ならびに『東北福祉大学感性福祉研究所年報』などを発行しています。

### 4) 論文検索

学術雑誌に掲載された論文は、国立国会図書館編『雑誌記事索引』で検索することができます。図書館によっては、CD-ROM版を持っており、検索が容易な場合もあります。NDL OPAC (<http://opac.ndl.go.jp/>)でも検索できます。

また、インターネットなどで「CiNii（論文情報ナビゲータ）」「NACSIS Webcat（総合目録データベース）」を用い、「キーワード」から関連論文を探す方法があります。なお、これらの論文検索サイトは東北福祉大学図書館ホームページに「データベース」としてリンクが貼られています。卒業研究の先行研究調査の場合などに、是非ご利用ください。

### 5) インターネットの利用

インターネットはうまく使いこなせば、自宅にいながらにして、世界中の情報にアクセスできる文明の利器です。しかし、その情報のなかには、真偽が不明なものも多くあります。また、利用中に知らずにウイルスに汚染されたり、課金されてしまったりする悪質なホームページも一部にはあります。各自の責任において、利用してください。

また、ホームページの文章を安易にコピーして自分のレポートに掲載することは望ましくありません。やむをえず利用する場合も、必ず4章p.167～168記載の「引用、要約ルール」を守るようにしてください。

そして、有益な情報でも、それが必ずしも学問的知識・概念・理論とは結びついていない場合があります。情報にふりまわされて、自ら考える力を失わないように注意してください。

## 4 テレビ・ビデオ・映画・小説などの活用

抽象的な学問の内容を理解するためには、その基礎となる具体的な現実をイメージできるようになることが早道です。心理学の場合は人間の行動と意識が対象ですから、ご自分の日常生活をふりかえって理解できる場合も多いと思います。社会福祉学では、福祉サービスの利用者やその家族・関係者、および施設やそのなかで働く人々がどのような問題をかかえているのかについて未知の方は、施設・病院見学やボランティア活動などを通して実際の福祉の現場に少しでも触れてみる必要があります。

はないかと思えます。

時間の都合でボランティア活動などが難しい方は、次のようなメディアに触れてみませんか。

#### 1) テレビ

福祉関連の話題を特集する報道番組も多くなりました。『ハートネットTV』（NHKEテレ）は福祉情報が満載、2014年に話題になったドラマ『サイレント・プア』は「ソーシャルワーク」を考える教材になります。

#### 2) ビデオ

高齢者介護や障害者と接するための方法を解説した実技ビデオは、本学図書館や公共図書館に置かれていて、入門者には有効です。また、福祉ビデオライブラリー（NHK厚生文化事業団）をレンタルし視聴することもできます。なお、心理学の入門ビデオとして定評のあるものに、P.ジンバルド監修『心理学への招待』（全26巻 丸善）があります。

#### 3) 映画

障害者を主人公にした有名な映画は数多くあります（たとえば自閉症『レインマン』『学校Ⅲ』、知的障害『八日目』『ギルバート・グレイブ』『フォレスト・ガンプ』『レナードの朝』『静かな生活』、聴覚障害『愛は沈黙をこえて』『愛は静けさの中に』『アイ・ラブ・ユー』、視覚障害『竹山一人旅』『奇跡の人』、精神障害『カッコーの巣の上で』など）。

#### 4) 図書

小説では、認知症老人とその家族を描いた『恍惚の人』（有吉佐和子）は名作（他に佐江衆一『黄落』など）。『永遠の仔』（天童荒太）は子ども虐待と老人問題を扱っています。山に捨てられる老婆とその息子の葛藤を描いた『楢山節考』（深沢七郎）、障害児をもつ家族を描いた『くるま椅子の歌』『桑の子』（水上勉）もあります。絵本では『さっちゃんのまほうのて』（田畑精一ほか）が有名。また、福祉関連のノンフィクション、ルポルタージュは数多く出ています。児童虐待がテーマの『Itと呼ばれた子』、精神障害者やその家族の手記を集めた『こころの病い—私たち100人の体験』『こころの病い2—家族の体験』は一読の価値あり。また、障害をもつ本人の著作としては『五体不満足』（乙武洋匡）、『車イスから見た街』（村田稔）が代表的です。

#### 5) 漫画

ろう重複障害者の就労問題をテーマにした『どんぐりの家』（山本おさむ）、自閉症児の発達がテーマの『光とともに…』（戸部けいこ）、車イスバスケットボールを扱った『リアル』（井上雄彦）、高齢者介護を描いた『ヘルプマン』（くさかり樹）などが話題になっています。

## Ⅲ 福祉に関する情報

### 1) 地方自治体の利用

地方自治体の保健福祉課（名称は自治体ごとに違います）では、児童・障害者・高齢者に対する各自治体の福祉制度の紹介などを記したパンフレットを配布しています。福祉政策の概略を知るにはよ

いかもしれません。

また、たとえば仙台市の場合は「仙台市福祉プラザ」（青葉区五橋2-12-2）内に「福祉図書コーナー」（022-213-6425）があり、福祉関連の書籍・雑誌・DVDが閲覧できます。

## 2) 関係機関の訪問

「高齢者福祉論」「児童・家庭福祉論」「福祉心理学」「障害者教育総論」ほかのレポート課題を解答する際には、自治体の施策を調べたり、パンフレットを参考にしたり、その他施設や社協、学校等を訪問・見学することが望ましい、と記されています。

単にパンフレットを入手するだけならばアPOINTは不要ですが、自治体や施設・学校を見学希望であったり、くわしい話しを聞きたい場合は、下記のような点をお守りください。

- (1) 事前に電話でアPOINTメント（訪問日時の約束）をとる
- (2) 所属・氏名を明らかにし、ヒアリングをしたい場合は事前に簡単に何を聞きたいのか伝えておいたほうが望ましい
- (3) 目的は「レポート課題のため」というよりも、自分の関心や課題内容に即して、「介護保険制度が詳しく知りたい」「精神障害者の地域生活支援の実際の整備状況が知りたい」などのように話すほうが望ましい
- (4) 相手は忙しいなか時間を作ってくださっているわけなので、感謝の気持ちを忘れないようにする

## 3) 白書の利用

福祉の動向や現状を知るには、毎年秋ごろ発行される『厚生労働白書』（厚生労働省監修）、『障害者白書』（内閣府）、『子ども・子育て白書』（内閣府）が、役立ちます。『厚生指標 臨時増刊 国民の福祉の動向』（厚生労働統計協会）、『社会保障の手引』（中央法規）もよく利用される資料です。

教育関係ならば『文部科学白書』（文部科学省編）が便利です。

その他、官公庁の発表する政策や各種統計に関する資料は「白書」類で調べるとよいでしょう。なお、「白書」の多くは概要が官公庁のホームページで閲覧できます。

なお、政府刊行物サービスセンター（仙台市青葉区本町3-5-22宮城県管工事会館1階）では各種法令書から実用書まで取り揃えられており便利です。

## 4) 福祉の仕事

福祉の仕事に関してくわしく知りたい方には、次のようなガイドブックが役立ちます。福祉関連の就職をお考えの方は、是非お読みください。

『福祉のしごとガイドブック』『社会福祉士のしごと』（中央法規）

『福祉の仕事』『ソーシャルワーカーの仕事』『精神保健福祉士の仕事』（朱鷺書房）

『社会福祉士まるごとガイド』『精神保健福祉士まるごとガイド』（ミネルヴァ書房）

『これからの精神保健福祉—精神保健福祉士ガイドブック』（へるす出版）

## 5) 社会福祉協議会

都道府県、各市町村におかれている社会福祉協議会（社協と略して呼ばれることが多いです）でも、福祉に関する情報が多く入手できます。各県の社会福祉協議会のなかにある「福祉人材センター」（名称は県によって異なります）は就職に関する情報提供なども行っています。

情報コーナーや福祉関連の図書が充実しているところもあります。ボランティアに関しての情報を提供しているところもあります。